

# 古代史散策

No. 109

## 葛城古道 新庄

パナソニック電工松寿会  
古代史散策部

平成28年4月作成

〈 コース 〉 8km

近鉄新庄駅 — 柿本神社 — 神明神社古墳 — 二塚古墳  
— 博西神社 — 屋敷山古墳 — 葛木御県神社 — 飯豊天  
皇陵 — 葛城市歴史博物館 — 近鉄忍海駅…解散

### 〈 総 説 〉

大和国と河内の国境をなし、西に緩やかに東は急斜する葛城連山の東麓に鎮むもの、それは葛城古代人の営み跡であった。

この地は大和朝廷成立にかかわる聖地であるし、古代中央豪族の鴨氏（出雲系）尾張氏（海人系）葛城氏等が蟠居し、天皇家も交えてこの地の争奪に角逐したであろうことは、この地が鴨 → 高尾張 → 葛木とその名を変え、その盛衰を物語る跡に名残を留めている。

### 〈 葛 城 の 道 〉

奈良盆地の東側の「山辺の道」に対し、西側にある「葛城の道」は、金剛山・葛城山の麓を南北に走る古代の主要道路である。この地は 自然がはぐくむ豊かさによって早くから開け、5世紀には、ヤマト政権内の有力な豪族であった葛城氏一族の根拠地として栄えたといわれる。

付近一帯は神話のふるさとともいわれ、記・紀に伝わる神々や高天原の伝承地などがあり、そこに登場する神々が祀られた神社などが、今でも地元の人々の信仰を集めている。重要な遺跡や由緒ある社寺が点在しており、歴史のロマンを感じさせる古道である。

道標や案内板によって整備された散策路「葛城の道」（櫛羅の六地藏から風の森に至る全長約15km）は、奈良盆地や大和三山を見下ろす雄大な展望、一面に広がるコスモス畑、古い家並みの連なる集落など、豊かな自然と歴史が織りなす風景が楽しめる散策路である。

## 《各 説》

かきのもと

### 【柿本神社】

葛城市柿本

社伝によると、宝亀元年（770）、石見で死去した柿本人麻呂の遺骸をこの地に葬り、その傍らに社を建立したと伝える。本殿脇に「人麻呂塚」があり、天和元年（1684）郡山藩主松平信之建立の石碑が立っている。



### く柿本朝臣人麻呂

和歌全史を通しての最高峰と称せられる万葉歌人で、生没年も不詳。

万葉時代に師範として仰がれたが、さらに歌聖といわれ、神として祀られるに至った。「万葉集」中に人麻呂と明記されるものは、長歌18首、短歌66種を数え、作歌は天智・天武天皇時代に始まったと思われるふしがあるが、年代の判る最初の作は持統天皇3年（689）のものがある。

書紀、天智13年（682）の条に、姓を「臣」から「朝臣」にされたとある。

### 【神明神社古墳】

葛城市寺口 教育センター内

7世紀後半の古墳時代終末期の築造と推定される円墳である。巨大な花崗岩の一枚岩を箱型に組み上げ、さらに石の合わせめには漆喰を施し、石材の表面を美しく平らに仕上げる工夫がなされた横口式石郭をもち、奥壁から3mと4.5mの側壁に幅8cmの溝があり、取っ手の金具（銀貼り環金具）も出土しており、木製の中扉と前扉がつけられていたようである。



遺物としては銀製金具と鉄釘、水晶製切子玉が出土している。

### 【二塚古墳：国史跡】

葛城市寺口

葛城山の尾根筋を幅10mほど切断して築かれ、ほぼ南北に主軸をもつ、俗称「銭取墳」とも云われる前方後円墳で、全長60m・後円部径36m・高さ10m・前方部幅41m、高さは後円部とほぼ同じの二段築造で、西側のくびれ部には造り出し部が明瞭に見られる。前方部・後円部・造り出し部のそれぞれに横穴式石室があり6世紀中頃の築造墳としてはきわめて珍しい。墳丘表面に扁平な石材を使った貼石が認められた。



一段低い東側にも平坦部が残っており空濠の跡と考えられる。後円部の石室は両袖式で全長16.41m、玄室の長さ6.73m・幅2.98m・高さ4.1mで、奥壁が途中から少し前傾し、側壁も3段目か



ら傾斜している。羨道が幅・高さともに開口部にいくほど開いている。古くから開口し、内部は荒らされていたが、凝灰岩の組合せ式石棺の底部破片が残されていた。また金銅花型座金具を始め馬具・鉄製武具・農具の鋤先・玉類なども出土している。

前方部の石室・玄室は、後円部の約半分の規模で、入口部から奥壁に向かって左側に位置する方袖式である。

造りだし部の石室は横口式で全長7.82m、小形の狭長な玄室の西側に特殊な構造の羨道をもっている。一段低くなっている玄室からは、須恵器89個・土師器29個計118個の土器類と、馬具・武具・農具などの鉄製品が出土した。入口に近い所で直刀・刀子・琥珀製棗玉が出土し、木棺が安置されていた場所と推定される。

はかにし  
【博西神社】

葛城市寺口

下照姫・菅原道真を祭神とする。本殿（国重文）は、一間社春日造の銅板葺きで、室町時代の建造である。

もとは村社で「倭文神社」と称

し、あめのはいかづちのみこと天羽雷命を祀っていたが、大永年間（1521～29）に菅原道真公を合祀して2座になったと伝え、明治初年、天羽雷命を下照姫命とし現在に至っている。

天羽雷命を祀った所縁は不詳で、口碑に現当麻町太田にあった“たなばた棚機の森、から、領主布施氏が勧請したと云う。



やしきやま  
【屋敷山古墳】

葛城市竹内 屋敷山公園内

全長135m・後円部径77m・前方部幅90mの前方後円墳。竪穴式石室内に長持形石棺を安置する5世紀中頃建造の古墳で、地域の支配者であった葛城氏一族の墓と推定される。

縄掛突起をもつ石棺は市歴史博物館に展示されており、石棺の蓋は公園内に置かれている。

屋敷山の名の由来は、中世から近世初頭に、葛城山系の中腹尾根に布施城をつくって、この地を支配した布施氏の、平時における居館が築かれたことや、近世初めに桑山氏が陣屋を置いたことにも由来する。

桑山氏は、重晴のとき豊臣秀長に仕え、和歌山城代として4万石を領していた。関ヶ原の戦いで徳川方に与みし、後、一晴が新庄に入り陣屋町を形成した。その後、入封した永井氏は、代々幕府の要職にあつたため、新庄には住まなかったが、既に付近の中心的な町となっていたため、宿場町として発展した。



かつらぎみあがた  
【葛木御県神社：式内社】

葛城市新庄

あまつひこひこほのににぎのみこと天津日高日子番能瓊々杵尊とあめのつるぎのみこと天劍根尊を祭神とする古社である。もとは、現在地より東100mの八天山西光寺の境内にあつたが、延宝8年（1680）かすただ桑山一尹が、北花内村の三才山に諸鍛神社を遷した際、当社も同所に遷された。元治元年（1869）、三才山を飯豊皇女の埴口墓として修理することになり現在地に遷座した。

明治2年、延喜式内社として復祀されたが、元の所には西光寺があるため、現在地に建立されたのである。

葛城県は、大和にあったとされる6ヶ所の県（6御県＝高市・山辺・志貴・十市・山添・葛城）の一つで、御県神社はその鎮守と考えられる。

いいとよのひめみこ おしみはにくちのおか  
【飯豊皇女 忍海埴口丘陵】

葛城市南花内

飯豊皇女（あおみのいらつめ青海郎女）は、記・紀とも、17履中天皇の長子  
いちのへのおしはのみこ市辺押磐皇子の同母妹として記載され

ている。<sup>22</sup>清寧天皇崩後弘計皇子（後の<sup>23</sup>顕宗天皇）・<sup>おけ</sup>億計皇子（<sup>24</sup>仁賢天皇）が天皇の座を譲り合って長い間空位になったとき、皇女が忍海高木角刺宮で、臨時に天皇の政務を執ったという。



【葛城市歴史博物館】

葛城市忍海

葛城地域の歴史について、考古・歴史・民俗の各資料をはじめ、葛城氏や葛城山系の山岳寺院・竹内街道などのテーマに沿った、考古・歴史資料を展示している。

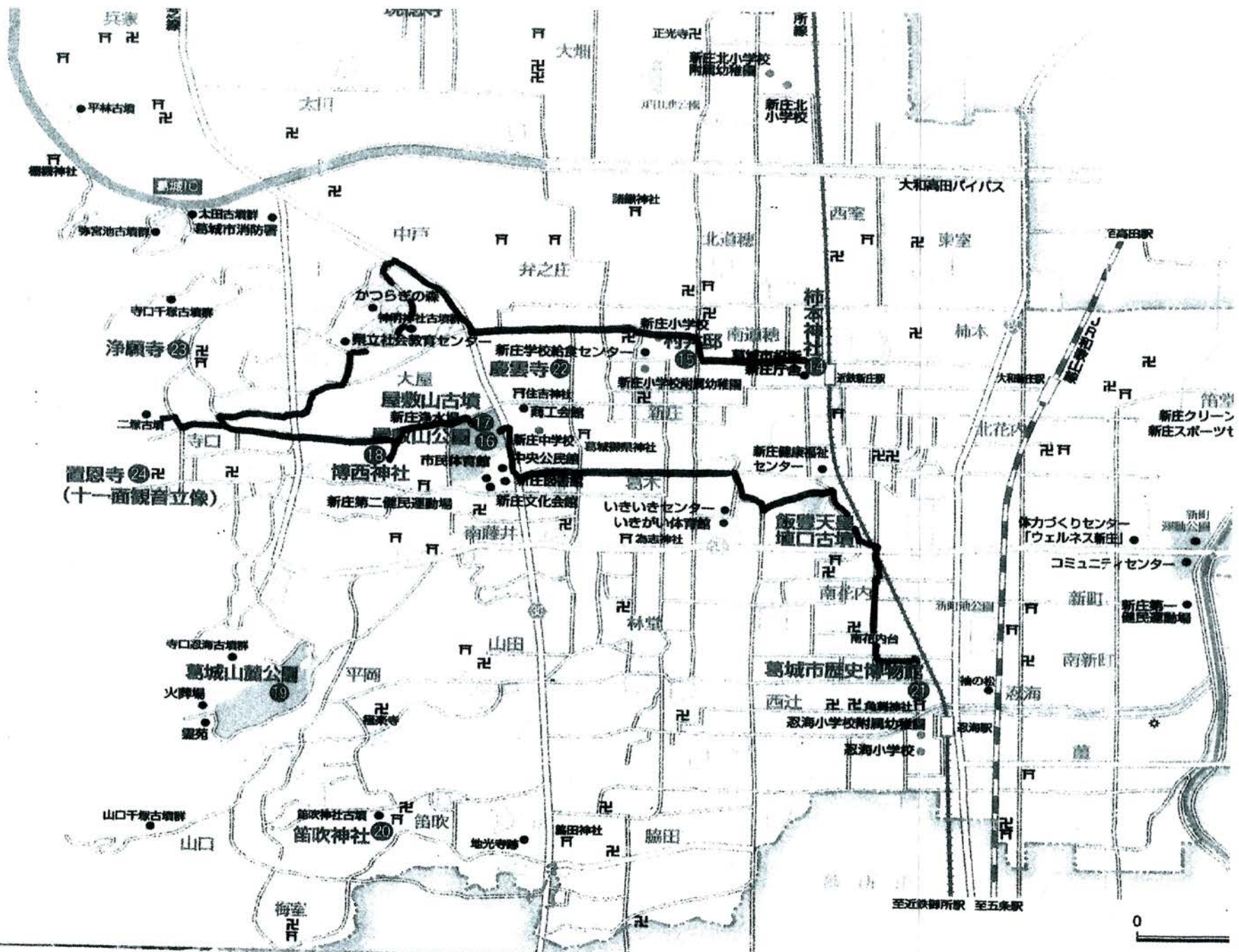


作成 末岐敏一

案内 河内正明・堀内 肇

<メモ>





浄願寺 (十一面観音立像)

葛城山公園

葛城市歴史博物館

忍海小学校

新庄北小学校

新庄北小学校

忍海小学校

忍海小学校

忍海小学校

忍海小学校

忍海小学校

忍海小学校

忍海小学校

忍海小学校

忍海小学校

至近鉄御所駅 至五美駅

